

兵庫県水産技術センターだより

貝毒情報(アサリ) KD-29-臨時1号

平成30年2月21日発行

プランクトン検査を2月16日～19日に実施しましたので、その結果をお知らせします。

- 【概況】・プランクトン検査の結果、貝毒原因プランクトンが確認されましたが、注意が必要な密度ではありません。
- ・大阪湾では貝毒原因プランクトンが増加傾向にあるため、今後も継続してプランクトン検査を実施します。



【検査結果】

年月日(採水)	H30. 2.16	H30. 2.19
地点(St.)	芦屋	洲本
水温(°C)	7.9	8.4
塩分	25.7	32.1
貝類の毒化状況 [マウスユニット/g]		
麻痺性貝毒		
麻痺性貝毒原因プランクトン		
アレキサンドリウム タマレンセ <i>Alexandrium tamarense</i> (個数/100L)	240	540
アレキサンドリウム カテネラ <i>Alexandrium catenella</i> (個数/100L)	0	0
下痢性貝毒原因プランクトン		
ディノフィシス フォルティ <i>Dinophysis fortii</i> (個数/100L)	0	0
ディノフィシス アキュミナータ <i>Dinophysis acuminata</i> (個数/100L)	0	0



※原因プランクトンの分類については、科学的な再検討が進められていますが、本情報では農林水産省消費・安全局のガイドラインに沿った種名を使用しています。

【今後の情報予定】

2月26日の週にマガキの定期調査、及びアサリの臨時調査(プランクトン調査)を予定しています。調査結果がまとまり次第「貝毒情報KD-29-17号」及び「貝毒情報KD-29-臨時2号」としてお知らせします。

<規制の基準>

可食部の毒量が

麻痺性貝毒: 4マウスユニット/g

下痢性貝毒: 0.16mg オクタ酸当量/kg } を超えた場合

<注意が必要なプランクトン密度>

・麻痺性貝毒原因プランクトン(代表的な種)

アレキサンドリウム タマレンセ

Alexandrium tamarense 5,000 個数/100L以上

アレキサンドリウム カテネラ

Alexandrium catenella 50,000 個数/100L以上

・下痢性貝毒原因プランクトン(代表的な種)

ディノフィシス フォルティ

Dinophysis fortii 50,000 個数/100L以上

§ お問い合わせ先 § 兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター (担当: 水産環境部・内田、宮原)

Tel : 078-941-8602

Fax : 078-941-8604

Homepage : <http://www.hyogo-suigi.jp/>